

(別紙様式10)

2020年度 北極域研究共同推進拠点 共同研究等報告書

【申請区分】: 萌芽的異分野連携共同研究 共同推進研究
 産学官連携フュージビリティ・スタディ
 共同研究集会 産学官連携課題設定集会

【研究課題名】: 持続可能な北極域(海洋)観光に関する調査研究

【研究期間】:2020 年度

【共同研究員】

共同研究員	氏名	所属・職名	専門分野	区分
研究代表者 (拠点内外) (注2)	Juha Saunavaara	北海道大学北極域研究センター 助教	北極・北欧・北海道 地域振興・経済	
研究分担者 (拠点外) (注2)	Brooks Kaiser	Management and Economics of Resources and the Environment Group, University of South Denmark, Prof.	環境&ビジネス経 済、極域研究&政 策イニシャチブ	
	Chris Horbel	Department for Cultural and Social Studies, Norwegian School of Sport Sciences, Assoc. Prof.	市場・顧客関係	
	Mari Partanen	Doctoral researcher, University of Oulu, Geography Research Unit	地理・社会学	
	福山貴史	北海道大学観光学高等研究セン ター	雪氷観光創造、資 源人材開発	
研究分担者 (拠点内) (注2)	田中 雅人	北海道大学北極域研究センター 特任教授	産学官連携、北極 域観光・クルーズ	
	大西富士夫	北海道大学北極域研究センター 准教授	北極域政策、国際 関係論	
	大塚夏彦	北海道大学北極域研究センター 教授	北極海航路・海運・ 港湾	
研究協力者 (拠点外) (注 1)	岩本勉之(かつし)	紋別市産業部水産課課長	水産研究・国際シ ンポジウム学術担 当	
	村井克詞(かつし)	オホーツクガリンコタワー(株)運行 事業部課長	海洋工学 船舶運航	

	片倉靖次	紋別市産業部水産課参事	水産科学 水産研究・国際シ ンポジウム学術担 当	
	伊藤栄治郎	(株)クルーズライフ、社長	極域専門旅行クル ーズ会社	
	田島和江	(株)トライウェル・インターナシヨナ ル、社長	極域専門クルーズ 旅行会社	
	上田佳代子	(株)クルーズプラネット、広報・販促	クルーズ旅行会社	
	荻原沙耶	インターナショナルクルーズマーケ ッティング(株)、広報	クルーズ旅行会社	
	久野健吾	フッティルレーテン、アジア・太平洋 地区マネージャー	クルーズ船会社	
	糸川雄介	シルバーシークルーズ、日本・韓 国支社長	クルーズ船会社	
	沖田一弘	(一財)みなと総合研究財団 クルーズ総合研究所、副所長	港湾・クルーズ調 査・研究	

(注 2) 拠点内外については、募集要項別添の北極域研究共同推進拠点を形成する3研究施設の研究者リストをご覧ください。

(注 3) 計画申請書に含まれていなかった方でも結果的に本共同研究に参画された方(招へい者等)が居られれば、研究協力者として記述して下さい。

【研究の内容】

(1) 概要を 400 字以内(文字のみ)で記載してください。

持続可能な北極域観光・クルーズのあるべき姿と可能性・リスク、適用性・経済性などの調査に向け、南デンマーク大学(南ア大)と共同で北極域クルーズに関する情報収集と日本の消費者に対する意識調査を実施した(*)。しかしながら、各国のクルーズ会社等はコロナ禍の影響を顕著に受け、ツアーの全面中止、感染予防と事業立て直しのためアンケート調査は中断となった。その間、世界・日本の北極クルーズの市場・経済動向に関する収集・調査を行った。また、成果発表の機会であった「第 3 回北極圏における持続的ツーリズムの開発」(フェロー諸島)、並びに「第 36 回北方圏国際シンポジウム」(紋別)は開催延期・中止となった。また南ア大と共同で、VR 機器利用による「仮想北極観光シンポジウム」の開催と参画することを取り決めた。

(*)南デンマーク大学が受けるデンマーク INP(国際ネットワークプログラム)資金も活用

一方、新たにフィンランド・Oulu 大学、北大観光学高等研究センターの参画の元、紋別・網走と Kemi(フィンランド)の砕氷船クルーズ観光の比較調査研究を開始した。

(2) 図表や写真も交えて、研究の内容や成果等を 2000 字程度でまとめてください。

2019 年度は、アンケート調査に関する情報収集と、極地クルーズ専門、クルーズ専門、総合旅行

会社、船会社・コンサルタントより、持続的北極クルーズに関する現状把握・課題、アンケート調査の意義・ニーズ等のヒヤリングを実施した。これに基づき、南デ大学と共同で持続的発展に向けた北極クルーズに関するホスト(デンマーク・グリーンランド)/ゲスト(日本)に関わるニーズ/シーズ、課題等アンケートを作成・開始した。

<2020 年度の結果>

①アンケートの改訂、web 版、hp へのアップ

顧客のニーズに合わせ、アンケートを 35 項目に簡略化した。また、アンケート用紙に加え電子版、web 版を作成し、クルーズ旅行会社 3 社、船会社 2 社の協力を得てアンケート調査を実施した。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdXdxpRfCVCAd2TY2GJ4gbfN55i-E2HxvV7yyju8NZfjGcXMw/formResponse>



北極圏クルーズ経験者の皆様に対する持続的北極海観光に関する調査

この調査は、南デンマーク大学（プロジェクト:「北極とのつながりとその障害：持続可能な北極海ツーリズム (CO-SAMT)」）と北海道大学北極域研究センター(*1)（プロジェクト:持続可能な北極域（海洋）の観光に関する調査研究）のリーダーシップの下で行われる研究の一部です。それぞれのプロジェクトをリードする2大学の他に、神戸大学、韓国極地研究所および韓国海事研究所の研究者がこの研究に参加しています。

このプロジェクトは北極海クルーズ研究会との協力で、またアンケートの配布と収集のために北極圏クルーズを扱う複数の旅行会社と協力して実施しています。本調査はデンマーク国際ネットワークプログラム (INP) と日本の北極域研究共同推進拠点 (J-ARC Net) (*2)によって資金援助されています。

すべての回答は匿名で実施し、得られた情報は本研究の目的以外は使用しません。

(*1) <https://www.arc.hokudai.ac.jp/>

(*2) <https://j-arcnet.arc.hokudai.ac.jp/?lang=ja>

主催：北海道大学北極域研究センター、南デンマーク大学

支援：北極域研究共同推進拠点

次に進むは「Next」、前に戻るは「Back」をクリックしてください。

次へ

②コロナ禍の影響

2020 年 4 月以降、クルーズ船でのコロナ感染の影響が拡大し、5 月～10 月の北極クルーズ繁忙期にはほとんど北極クルーズ船が稼働せず、クルーズ顧客へのアンケートの実施・回収は不可能となった。その間、北極クルーズの市場・経済動向調査を実施し、5 月に開催の「第 3 回北極圏における持続的ツーリズムの開発」(フェロー諸島)並びに、2月に開催の「第 36 回北方圏国際シンポジウム」(紋別)においてその調査結果も含めた発表を予定していたが、コロナ禍の影響で開催延期・中止となった。

③新たな調査研究の企画

2020 年度の本調査研究の実施が見込めない中、「持続可能な北極域(海洋)観光に関する調査研究」として、フィンランド Oulu 大学・北大観光学高等研究センターとの共同で、紋別・網走における流

氷砕氷船クルーズ観光と Kemi(フィンランド)の氷砕氷船クルーズ観光に関する比較調査研究を企画した。

本調査の目的としては、両地域の砕氷船を中心とした氷海観光の類似性に着目し、それぞれの地域の歴史、自然、産業の特性、地域社会との関りや文化的位置づけ、環境変化などグローバルな課題に直面する地域の取り組みなどを比較分析することにより、氷海観光の特徴、強み、課題および持続的な発展に向けた展望を考察することとした。

調査内容は以下を考えた。

1) 創業と経緯

創業の機会、進展とその要因、課題の克服(地域の理解、投資環境(官、民(既存・新規))、事業拡大(周囲の観光資源(事業)との相乗効果等)

2) 地域との関係と影響

コミュニティ、環境、雇用、経済/産業、地域・利害関係者の寄与

3) 砕氷船海氷観光の位置づけ、地域に及ぼす影響

経済面、文化面、情緒面、プラス/マイナス

4) 温暖化等の気候変動、COVID-19 の影響と対策

5) 持続的発展に向けた将来展望

本調査研究の背景・考え方とプロローグに関し、Kemi 側の状況について Oulu 大学研究者より、3/8 紋別ハンポジウム 2021 連携学術セミナーで報告した。

<Abstract>

Tourism is affected by multi-scalar changes as well as causes impacts, especially locally. Questions of environmental changes and responsibility of tourism are topical in Northern areas. Understanding the past and present and visions of the future is needed for examining sustainability of tourism. In Northern Finland, ice and snow are important for tourism and the way of life. The city of Kemi at the coastal area of Lapland has focused on winter-based tourism. An ethnographic research conducted in Kemi 2019-2020 with a focus on public and private sector and local young adult perspectives shows that tourism brings vitality, employment and wellbeing. However, global instabilities affect tourism, and winters with less snow and ice pose challenges for products like an ice-breaker and a snow castle, if they do not match with visitor expectations. Additionally, the focus and resilience of tourism and its environmental impacts dispersed opinions. Reconsidering the focus, planning with locals and multi-sectorally diversifying the services were identified as possible paths towards sustainability. The results suggest that regarding non-traditional viewpoints and examining different stakeholders' visions of overcoming challenges is central for enhancing holistic sustainability in and through tourism on a local level, and can provide novel insights in research.

(3) 本共同研究に関する活動・実績等を下表に記入してください。

①研究打合せ、学会参加・集会(注 4)、調査等

(注 4) 研究代表者、共同研究分担者、研究協力者、招へい者によるもの

日程(月日)	日数 (日)	活動内容	場所	研究代表者、共同研究分担者、研究 協力者、招へい者の参加者名・部署	参加 者数 (人)
2020.5.24-27	0.5	発表	フェロー諸 島	「第 3 回北極圏における持続的ツーリ ズムの開発」	延期
2020.07.01	0.5	打合せ	オンライン	Juha Saunavaara, Mari Partanen	2
2020.07.21	0.5	打合せ	北極域研 究センター	福山貴史,Juha Saunavaara,田中雅人	3
2020.08.26	0.5	打合せ	北極域研 究センター	福山貴史,Juha Saunavaara,田中雅人	3
2020.09.04	0.5	打合せ	北極域研 究センター	福山貴史,Juha Saunavaara,田中雅人	3
2020.09.14	0.5	打合せ	北極域研 究センター	福山貴史,Juha Saunavaara,田中雅人	3
2020.09.15	0.5	打合せ	オンライン	Juha Saunavaara, Mari Partanen	2
2020.11.18	0.5	打合せ	北極域研 究センター	福山貴史,Juha Saunavaara,田中雅人	3
2020.12.01	2	情報交換会	紋別	福山貴史,Juha Saunavaara,田中雅人, オホーツク流氷科学センター高岸氏、 紋別市博物館小林氏	中止
2020.12.02	1	情報交換会	オンライン (札幌/紋 別)	福山貴史,Juha Saunavaara,田中雅人, 岩本勉之(紋別市観光交流推進室),村 井克詞(ガリンコタワー(株),片倉靖次 (紋別市国際交流推進室,情報提供)	6
2020.12.03	2	情報交換会	網走	福山貴史,Juha Saunavaara,田中雅人, オホーツク観光連盟佐藤氏、網走観光 振興公社三島氏、佐々木氏	中止
2020.12.03	0.5	打合せ	オンライン	Juha Saunavaara, Mari Partanen	2
2021.02.22-24	1	打合せ セッション発 表	紋別	Mari Partanen(Oulu 大学), 福山貴 史,Juha Saunavaara,田中雅人,岩本勉 之(紋別市観光交流推進室),村井克詞 (ガリンコタワー(株),片倉靖次(紋別市 国際交流推進室,情報提供)、第 36 回 北方圏国際シンポジウム発表	中止

2021.03.08	1	発表	オンライン	“What next? Identifying challenges and envisioning sustainability of Tourism in Kemi, Finland” Mari Partanen(Oulu 大学)、福山貴史、Juha Saunavaara、田中雅人	4
------------	---	----	-------	---	---

②研究論文

研究代表者並びに、研究分担者あるいは研究協力者が著者の関連論文がありましたら可能な限り記載ください。

論文が複数ある場合は、そのフォーマットとして論文 1 の分をコピーして記載してください。

論文 1

項目	記入要項	回答
(1)著者名(共著者名含む)、 発行年、論文タイトル、掲載誌名、巻・号、ページ数、DOI、出版年月日		

③研究書等著書

著書名・著者名	出版年月	出版社名

④特許等出願

特許、実用新案、商標	

⑤研究発表(資料添付も可)

発表年月日	発表者名(共著者を含む)	発表タイトル	発表学会等名称	発表地	招待講演 (○)

⑥国際シンポジウム等(資料添付も可)

参加をした主な国際シンポジウム等		
開催時期(年月)	国際シンポジウム等名称	招待講演/議長の有無

⑦本共同研究に関し実施(主催、共催、後援等)したシンポジウム・集会(注6)等(資料添付も可)
 (注6) 研究代表者、共同研究分担者、研究協力者、招へい者以外を含む参加募集によるもの

開催日	実施地 (国、県、市など)	形態 (注7)	シンポジウム・集会等名称	目的及び概要	対象者 (注7)	参加人数 (海外(注8))

(注7)

形態:シンポジウム、セミナー、公開講座、ワークショップ、その他

対象:一般、地域、学生、研究者

(注8) 海外機関に所属するもの

⑧本拠点共同研究に係る成果が科学研究費などの外部資金の応募(予定を含む)やプロジェクトに発展した例があればご記入ください。

・プロジェクト名 ・代表者・関係者(所属) ・関係研究者 ・予定の場合は、(予定)と記載してください	・プロジェクトの主な財源 ・金額	プロジェクト期間	・プロジェクト概要 (目的・期待効果、規模、参加国等) ・これまでの本共同研究との関連性 (300字程度)

⑨研究成果が一般社会産業界などに還元(応用)された事例や新しい研究分野の開拓や教育活動に反映された事例(資料添付も可)

⑩その他国際研究協力活動事例

事業名	概要	受入人数	派遣人数

⑪学会賞等受賞、アウトリーチ、取材、その他

年月日	所在・出典・新聞名等	受賞者・関係者(所属)	研究課題名・賞名・内容等

記事コピー等を添付してください。

⑫コロナ禍の影響と対策

本共同研究へのコロナ禍の影響と対策(改善・代替策、計画変更、工夫等)、助成金執行率(%)について記述してください。

影響の事象	対策の有無と内容 (計画変更・中止、改善・代替策、工夫等)
打合せ、集会等の制約	オンライン開催に切り替え
シンポジウム等の開催延期	中止あるいは代替オンライン開催 オンライン開催に切り替え
現場視察・情報収集	VRへの切り替え実施
活動中断	計画変更(情報収集・調査)、別の周辺研究課題 の企画推進